

目次

ごあいさつ

3 歴史

- 1 鎌高の80年 奉寿
- 26 元気です、歴史の証人 町立実科高等女学校の卒業生
- 37 親子三代鎌高生
- 38 いろいろあります、鎌高の歌

41 部活

- 42 息吹きは昭和27年 サッカーボー
- 45 部活動盛衰記
- 46 各部からひと言 現在の部活動の様子
- 59 相撲部の思い出
- 60 かつて鎌高弁論ありき
- 61 地学部 星空の下で過ごした3年間
- 62 合唱部の思い出

63 人と土地

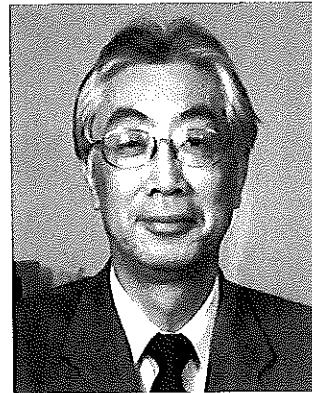
- 64 墓石に読む 初代校長山口 萬氏と令嬢智恵子さん
- 65 赤木圭一郎の思い出
- 67 個性豊かな卒業生
- 68 にぎやかな鎌高周辺
- 70 走れ！ 江ノ電
- 72 鎌倉高校 最近の特色
- 74 PTAのあゆみ
- 78 同窓会のあゆみ

79 資料

- 80 卒業者数の変遷
- 81 校内施設の変遷
- 83 歴代職員

さ
あ
い
さ
つ

校長
金子善政



鎌高80周年を迎えて

神奈川県立鎌倉高等学校は、昭和3年に鎌倉町立鎌倉実科高等女学校として設立されて以来、ここに創立80周年を迎えることになった。今回、それを記念して80年を振り返り、鎌高の素晴らしい在校生・卒業生そして地域の方々と共有し、これから鎌高の礎を築く事業を行うこととした。

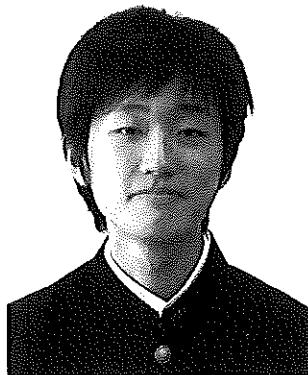
鎌高の歴史は、「昭和」と「平成」とともに歩んできた歴史でもある。その歴史を振り返れば、実科高等女学校を創設した鎌倉町民の誇り、高等学校への転換、神奈川県への移管、その都度いろいろな人々の鎌高に対する思いが伝わってくる。特に、県への移管は戦後の苦しい財政の中で、良くぞこの地に学校を造っていただいた。市内から離れたが、そのかわり素晴らしい環境を手に入れることができた。のんびり江ノ電、紺碧の相模湾、正面に伊豆大島、左に三浦半島右に江ノ島その向こうに伊豆半島、正門をくぐると緑に囲まれた広い校地、小鳥のさえずり、振り向けば凛とそびえる靈峰富士。この素晴らしい環境があるからこそ「憧れの学校」として優秀な人材の集まる現在の鎌倉高校があると言っても過言ではない。そしてその陰には多くの人々の血の滲むような苦労があったことを忘れてはならない。

今回の記念事業のもう一つのテーマは、卒業生と在校生のコラボレーションである。鎌倉高校には素晴らしい卒業生が沢山いる。今回はその卒業生による美術展や音楽会が実現した。在校生は、この交流を通し、先輩を知り、先輩を目標にさらに勉学に励み、新しい鎌倉高校を創造してほしい。

これまでの鎌倉高校も新しい学校を造る意気に燃えていたが、さらに昨年学力向上進学重点校の指定を受け、これからも前向きな日々の積み重ねにより、鎌倉高校を一歩一歩前進させていきたい。今後も、みなさまの鎌倉高校に対するご支援とご協力をよろしくお願い申し上げる。

鎌倉高校の明日に向けて　いざ鎌倉

生徒会長
今野太智



太く、大きく、美しく

県立鎌倉高校は今年で創立80周年を迎えました。この年月の中で生まれた多くの歴史、思い出、絆。その一つ一つが、根となり枝となり葉となり多くの人に見守られて「鎌高」という名の大木に生い茂っています。

鎌高は、若者のほとばしる情熱をさらに熱くさせ一気に爆発できる舞台であり、またいつまでもやさしく生徒を見守っている「母校」という温かな故郷である。色々な面を持ちまたその一つ一つがお互いパズルのピースのように作用しあう。そんな営みがあったからこそ「80周年」という年月を刻めたのではないでしょうか。

私たち鎌高生は例えるならば、この鎌高大木の「芽」なのだと思います。社会から「経験」という栄養を吸収し実践していく。そのなかで新芽から青葉へと大きく成長し、やがて落ち葉となり次世代の鎌高への糧と成っていく。目には見えないこのサイクルはどんな高校よりも母校愛に満ちた鎌高にしかないオリジナルのスタイルであり、これこそ伝統なのであります。

私たちが今、しなければならないのは、この伝統を引き継ぎ未来に渡すこと、そしてこの伝統を土台として新たな枝を新しい世界に向けて、伸ばしていくことです。時代とともに発展を続けてきた鎌倉高校は、今度は時代を一新させるような発展を見せるときです。

日本の未来を拓くのは、校歌にもあるように鎌倉高校の役目なのです。とてもなく大きな目標ですが、私たち鎌高生なら少しずつでも近づくことはできると思います。

湘南の太陽に照らされて、より太く、より高く、より美しく、世界に伸びろ、鎌高大木。

[校章について]

昭和23年、鎌倉市立鎌倉高等学
校となつたのを機に、当時の美術
の先生が、現在の「鎌高」の図案
を作成しました。以来、鎌倉実科
高等女学校時代の「星月夜」の校
章は使われなくなりましたが、「星
月夜」の言葉は現在の校歌の歌
詞に受け継がれています。

元気です、歴史の証人

鎌倉町立実科高等女学校の卒業生



[参加者]

卒業生

- 原田春江さん (梅組)
徳永みや子さん (〃)
横山葉子さん (菊組)
加藤喜子さん (〃)
宗智尾さん (〃)
菊地一江さん (〃)
天都カネ子さん (〃)
丸山夏子さん (〃)
芹沢栄子さん (〃)

在校生

- 小森沙耶さん (現2年)
小池亜祐未さん (〃)
三浦可杉妃さん (〃)

2008年3月27日(木)鎌倉高等学校に、鎌倉町立実科高等女学校の卒業生(S16年卒)の方々をお招きして、在校生をインタビューに、座談会を行いました。

実科女学校ではどんな勉強をしていたんですか?

加藤 女らしい女になるための学校でした。お裁縫や家事を教えていただきましたから、今の高校生とは違うと思いますよ。
だからみんな静かでしょ。(笑)

丸山 英語なんかは覚えなくともいいって言わされました。
敵の国の言葉だからって。
お勉強できなくてもみんな入れてくれました。一応試験はあったけど、鎌倉市に住んでいれば入れてくれました。

天都 私はいい想い出があるんですけど、横須賀市の秋谷というところに住んでおりまして、その当時もそこから通っていて、小学校の先生が鎌倉に実科女学校というお裁縫を教えてくれる学校があるから行ってごらんなさいと。そこからは一人だけ来たんですけど、試験の日に和服で来たんですよ。袴をはいて平均台にも登りました。
筆記試験もありましたよ。

横須賀だったので保証人が必要で、鎌倉の方に保

証人になっていただいて学校に入りました。

―― 当時の制服というのは?

横山 制服はジャンパースカートでした。箱ひだのね。何期生かまでは和服だったらしいけど。

―― 体育の時の服装は?

丸山 ブルマー。大きなひだのスゴイの。



ブルマー姿

横山 お華の授業なんかもありましたよ。今お作法室なんてあるんですか？ お茶の先生やお華の先生がみえて教えて下さるの。

— 今は授業ではなく部活であります。

加藤 お作法の時間が楽しかったのよ。
お茶が出ますでしょ。お饅頭がひとつ出るでしょ。
それが楽しみで。
足がしびれちゃうんだけどエサにつられて。

横山 実科女学校でとてもよいと思ったのは、みなさんもそうでしょうけど、お裁縫をとてもよく教えてくださつたんです。きっとみなさん信じられないと思いますけどね、卒業学年の頃にはね、振袖でも留袖でも、お嫁さんに行く時の着物まで作れたんですよ。あと、男の人の袴ね。

丸山 テストに出たから未だに忘れられない。

横山 袴の仕立てというのがあるんですが、その時に使ったこよりがね、こよりを作れるというのが今すごく役立っています。書類をとじる時のね。

丸山 こよりは和紙でないとダメなのよ。



お裁縫の授業

— 部活はあったんですか？

加藤 一応ありましたよ。弓道とかバレーとか。



弓道部

横山 芹沢さんは走るのが早かったのよ。もう一人早いからいられたのよ。もう亡くなつたんだけど、岩沢さんとおっしゃって、大股で飛ぶように走つたのよ。この人(芹沢さん)は小さくてね、26kgしかなかつたの。

芹沢 よく覚えてるわねえ。

横山 運動場に大きなケヤキの木があつてね、真ん中にありますよ。

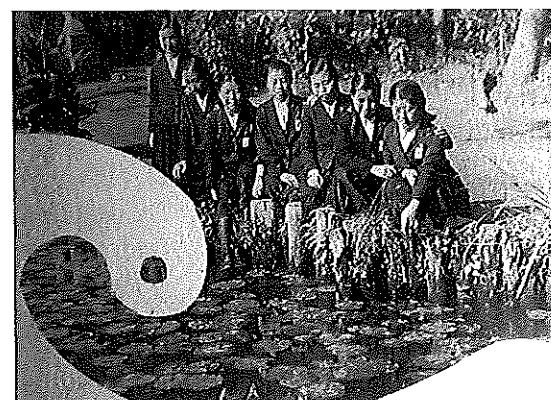
天都 池もありましてね、散策するようなとても優雅な感じでしたのよ。

丸山 鯉がいっぱいいましてね、私なんかワルでしたからね、芋虫をつけて釣るんですよ。そうすると教頭先生が怒つたね。

加藤 それにしてもロマンチックな場所だったわよねー。

芹沢 そう、詩がうまれたりね。

加藤 いい想い出がありますよ。



池のほとりで

— 教科書はどう変わりましたか？

これは今のなんですが。(数冊お見せする)

横山 ずいぶん違いますね。色刷りはほとんどありませんでした。

芹沢 きれいね。

— 内容も違いますか？

加藤 全然違うわねー。こんなにきれいだったらよく頭に入るでしょう。

丸山 その頃は進学なんてほとんどなかつたでしょ？ 大学に行く人なんてほとんどいなかつたもの。

天都 女学校に行った人もほとんどなくてね、私なんか「鎌倉実科女学校に合格」って教室に貼られたのよ。

元気です、歴史の証人

横山 大学に行く人はいなかったわよね。

天都 私は専門学校。文化服装学院。洋裁の学校ね。新宿まで通いました。

当时的進路っていうのは大学に行かれる方は少なかったんですか。

天都 師範学校へ行った人はいたわよね。

横山 先生の養成所があつてね。私事だけど、先生が足りないので、実科女学校に市の方から3人ほど推薦してくれって言われましてね、私も言われたんです。家に帰って母に言いましたらね、とんでもない!と。そういう職業につくのは賛成できないと。京都のお茶の先生のところに奉公に出ることになってるんだから断りなさいって言われて泣く泣く断ったんですね。ですから他の方が小学校の先生の養成所に半年位行って試験を受けて、学校に行ったのね。私はね、お茶とかしているうちに昭和16年に戦争が始まりましたね、そしたら母親が女の子が徴用にとられてしまうのは困ると勝手に思い込んで、今度は反対していた母親の方が「学校の先生になりなさい」と。第一小学校の先生のところに行ってお願いして、履歴書などを持つていって、市に申請してくださいって、それが通りまして昭和17年から第一小の先生になりました。助教として。1年勤めて、女子師範の中にある養成所に半年通つて資格をとつて……というのも校長先生が、女の子は資格をとつた方がいいと言ってくださいってね。

おかげで何とかやってきましたけどね。

その頃戦争が近づいていると思わせるものがありましたか?

加藤 訓練がありました。校舎の2階のところにハシゴをかけてバケツリレー。まじめくさつてやってたんですよ。今の人を見たら笑いますよ。あんなことして焼夷弾が消えるわけない。
何かあんまり勉強しなかったわね。
勉強きらいだからよかったです。

横山 その当時、ミシンで白衣を縫つたわね。

加藤 いやー、覚えてないわねえ。ずいぶんいろんなもの縫つたわ。

横山 それは戦争が終わってから着るものがないから縫つたのよ。

加藤 足袋、縫つてね。指のところを縫うのに針を2本位

折つちやつてね。

横山 学校では縫わないけど、卒業してから自分で縫つたわよ。

加藤 勝島先生? お料理を教えてくださるのよね。

天都 染め物もやつたわね。

加藤 数学のイトウ先生。最初教壇にあがつたら真っ赤になつちやつてね。



バケツリレー



白衣の制作

天都 お昼ね、今もやってるかもしれないけど、お弁当を食べる前に菓子パンなんかを一人で隠して食べるこ^トがあったじゃないですか。

加藤 あの角の店に行っておいなりさんを買つたりね。

天都 早く家を出ていたからね。

加藤 角のおじいさんとおばあさんがやってる店で、おいなりさんとかのり巻きとかおせんべいなんかも売つてたけど。買いになんか行っちゃいけないって言われてたね、でもみんな行ってたわ。

丸山 結構厳しくてね。お祭りなんか行くと先生につかまっちゃうんですよ。だから映画を観にいくこともできないしね、お祭りに行くこともできないんですよ。

横山 机の中の検査もされたんですよ。みんなフタを開けて先生が見てね。持ち物検査もされました。

資料に校則が厳しかったとあったんですが、みんなちゃんと守ってたんですか？

加藤 それだからこんな歳までいられるのよ。いろんなことが大変でしたよ。

天都 だいたい守ってましたね。

原田 いろんなことが厳しかったですよ。一つの学校のことだけじゃなくて、県内の先生方がみんな回ってられたよ。

加藤 映画なんか観に行くと、見回りが来てつかまっちゃうんですよ。注意されちゃうの。

横山 親といっしょならいいんですけどね。

原田 教科書以外のものは悪いものだという印象を与えられていましたね。ですから例えばフランス文学とかドイツの小説とかそういうものを持っていくと取り上げられてしまうんですね。そういうのになんか反発がありまして、「これは取られるな」ってものをわざわざ持っていくんですよ、学校に。それでそれが先生の目に入るかならないかをカケにしてね、自分とのカケにして……でも引っかかったことなかつたですね。一度でも引っかかったら抗議しようと思って待ち構えてたんですけど……。それが普通の文学ですから、そういうことされたら困るんですね。それを逆手にとて、と思っていたんですけど。ひつかからなかつたってことは、多めに見てくられたんでしょうね。

加藤 映画も見に行つちゃいけないしねー。ほんとに厳しかったわよねえ。

天都 服装検査ってありましたよね。

加藤 そうそう。

横山 頭の毛もそれぞれ違うでしょ。私なんかチリチリの方でしたからね、パーマかけてるんじゃないかなって言われましたよ。

丸山 ヘアバンドもいけなかつたですよね。

横山 してた人いたわよ。

加藤 あの人は毛がすごくコワくてね、バサーっとしてたからね、おさえないとね。

丸山 職員室に呼ばれてたわよ。どうしてもしなきゃいけないのかって。どうしてもしなきゃいけないって言ってやっと許しがもらえたのよ。

やっちゃんいけないことってあったんですか？

そういうのはダメだって言われたり。

原田 3年になったら‘おかっぱ’はダメって言われて。私はおかっぱだったもんですから、ピンをいっぱいさして違うようにしてたんですよ。でも自分の家に帰るとやっぱりおかっぱにしてました。注意されるんですね、職員室に呼び出されて。それをすり抜けるのが面白くてさかんにやってたんですけど。

加藤 なんかやっちゃんいけないって言われながらも、わりあいに適当にやってたのよね。

天都 やっちゃんいけないって言われるとやりたくなるのよね。やっぱり若い時代だったのよね。あとお弁当なんかもそうじゃなかったですか？ ストーブがあつてお弁当を温めるの。

丸山 棚があってね。下に練炭ですよ。練炭おいて……。

天都 あつたまつて異様な匂いがするのよね。16歳くらいですよねえ。……あつという間に80年、長老ですよ。高齢者。

宗 今の学校って購買部があります？
昔ありましたね、そこにタイプライターがあって、それをコツンコツンってやってたのを思い出しますね。ノートなんかをそこで買ったり……。

加藤 悪いことも、今の人から見たらなんでそんなことくらいって思うようなことを、私たちは大変な思いでするわけですよ。今の人からみたらウソみたいなささやかな反抗なんですね、それをすることが大変だったんですよね。
みんなを仲間にいれておかないとバレちゃうから。

天都 先生の教員室に入るとか……みなさんもやつたと思うんですけど……先生が来る前にワーウー騒いでたり。悪いことっていうほどじゃないんですけど、結構ベチャベチャしゃべってね。

加藤 数学のイトウ先生っていたんですけど、先生になつたばかりで、むこうも緊張しちゃっててね。それで、入口の戸のところに黒板消しをはさんで、開けると

元気です、歴史の証人

バチャって……。

あの先生はおとなしかったから。

天都 やっぱり悪いことしてたのね。

加藤 うちのクラスは大将がいたから。どうしようもない悪い子な訳じゃないのよ。
イトウ先生はまったく大人しくて、みんながひやかしたら真っ赤になっちゃってね。生徒の方がギャーギャー言ったら真っ赤になっちゃってね。

横山 今の先生でそういうことがありますか？

ないですね。

横山 こっちの方が悪かったんだわ。

加藤 先生自身ももっと純情だったからね。
私たちも純情だったわよね。

丸山 大学出て、女学校で、やっぱりすごくあがつたんじゃないの？

加藤 イトウ先生が一番かわいそうだったわよね

横山 大学出てすぐだったからね。

加藤 「青空」なんて言われてね。すぐあだ名つけちゃって。丸坊主にしてらしたんですよ

丸山 かわいだから「ブルースカイ」なんて言って。

天都 いやー、思い出しますねー。いろんなこと。しばらくぶりでね。こういうお話しないものね。

丸山 私たちのクラスはずいぶん悪かったわね。
梅組はおとなしかったのよね。
教壇をね、ロウケツ染めのロウで一生懸命塗って、
先生が手をつくとツルッとな。
そういう悪さをずいぶんやりましたよ。

そういう悪いことをした時におこられたりってことはなかったんですか？

丸山 そんなに怒られないんですよ。

菊組ってクラスはどうしようもないクラスね。

加藤 連帯意識が強くて、一人が悪いことをしてもみんなで隠したからね。連帯責任っていうか。〇〇さんがやれっていえばやるけど、誰がやったってのはね……。

横山 ボスがいたんですよ。

天都 今でも現役で床屋さんやってますよ。

丸山 みんな従っちゃったわよね。

天都 やっぱり楽しかったわねー、あの時代。



丸山 学校なんか試験がなければ最高だったわね。

天都 やっぱり試験があったのよね。1週間とかやりましたね。

丸山 本当、試験さえなければ最高の学校でしたよ。楽しかったわー。

加藤 試験の最後の時間はミシン室。先生がミシン室に入ると様子見て……いろんなことしたわ。でもあそこでお作法とか教わって……私はお作法覚えなきやつていって東京に1年行って……その時あーあの時もうちょっとちゃんと教わっておけばよかったって思ったわ。その1年は私の人生にはプラスでした。どんなところに行っても怖くなくなった。今この歳になって、行ってよかったです。その時は夜泣きましたけどね。

丸山 映画なんか見られなかつたんですよ。

「愛染かつら」が見たくてね。学校をズル休みして誰かが見に行ってくるんです。そうするとね、その後で教壇のところで、幕引きから始まって実演をやるんです。

天都 やつたねー。

加藤 楽しかったわね。

今の子は休みの日は映画館とか遊園地とかゲームセンターとかに行くんですけど、当時は遊びといつたらどんなところに行きましたか？

加藤 映画……。でも見ていい映画と見ていけない映画があるんですよ。で、見ていけない映画を親と行って、後でこそそと「あたし観てきちゃった」って。大したことないんですけど。

映画だってホントに観れなかったわ。

横山 ゲームセンターなんものはありませんでしたから。

丸山 お菓子屋さんだって帰りに寄れなかつたんですよ、見つかるのが怖くて。

お腹すきますよね、運動なんかして帰ると。だけど、お饅頭屋さんなんかで買いたいなと思っても……

天都 あの角にあったわよねー。

丸山 周りを見回してサッとな。

天都 駅の角のところにあったんですよ。

加藤 そのおばさん心得て、サッとな。

本当に、悪いことたって今の人からみたら何がというようなことがね。可愛そうなもんでしたよ。

横山 遊びに行くところなんてなかつたわよね。お友達同士の家には行くけどね。

今は女がいっぱいいると、女同士のいざこざとか陰で悪口とかありますけど、そういうのは全くなかったんですか？

加藤 みんな仲良かつたですよ。統率する人が一人いたんですよ。ボスがね。

丸山 いじめなんて考えられない。

加藤 みんな仲良かつたのかしらね。

天都 今みたいにストレスがないですね。

突然キレるなんてなかつたわね。今はストレスで犯罪が多いじゃないですか。そういうのはなかつたですね。

昔は‘人さらい’なんていってね、夕方は早く家に入らないとさらわれるなんて言われてね。

加藤 サーカスに売られちやうとかね。だから夕方遅くまで遊んでちゃダメとかね。

天都 さらわれた人なんていなかつたけどね。

加藤 ただ子どもたちに言ってきかせるのにね。

横山 昔はね、鎌倉あたりでも、大きなお寺なんかござりますしょ、お祭りなんかの時に境内にサーカスが来たりしたんですよ。見世物小屋があつたりね。そういうのに売られちやうっていうウワサ。今はそ

いうのないでしょ。

天都 ほんとにそうかなって思っちゃうのね。

首が伸びるのとか、不思議に思いましたよ。今ならトリックだつてわかって、ナーナダつて思うけどね。

加藤 今のお子さんの方が頭使ってるのね。

昔は親が言えばみんなその通りと思ってましたからね。

横山 純粹だったんですよ。親の言うことは絶対って思つてましたからね。

天都 反抗すれば、学校やめなさい、なんて言われちゃうのよ。

丸山 いい時代だったのかもしれないですね。

横山 よかったんでしょうね。



ちょっと不思議な質問をしたいんですけど、もし今現代の高校生になれるか、昔の高校生に戻れるかという選択肢が2つあつたら、どっちを選びますか？

加藤 私は昔の方がいいわ。

横山 私は今のも経験してみたいって思いもあるわ。

加藤 私はいいからかんの人間ですから、今の高校生のように自由になれたら、ちょっとヒモつけとかなきや、と思います。宝塚が好きだつたりしてたからね、そういう風になりたいと思っても観にいっちゃんいけないとかいろいろ言われてたでしょ。今みたいに自由になつたら、宝塚行こうとどこ行こうといいんですけどね……。それだから私の80年があるのかもしれない。おさえられてたから。

でも今の方たちは本当に幸せだと思いますけど、自制したり、自分で抑えたり、私たちにできないこ

元気です、歴史の証人

とができるからえらいと思います。お世辞じゃなく、本当にそう思いますよ。

横山 でも自制心は強かったと思いますよ。

加藤 いけないと言われれば絶対やらなかつたですからね。

原田 そうですか？

加藤 あなたはやってたんじゃない？

原田 気楽にやつましたね。悪い意識じゃなくて。なんかエンジョイしてたみたいなところがあつてね。

加藤 あなたはそうよ。悪いことしてるんじゃないんだから。ただ自由に、あの時代はギュッとしてるのに、ところどころ穴があいてるっていうか、自由なところがあつたから。

—— 通学する時は江ノ電でしたか？

原田 汽車通と徒步で行く生徒がいましたね。

横山 私は徒步でした。30分の半分かけるくらいな調子でいかないと間に合わなかつたからね。極楽寺の奥の方にいましたからね。

天都 一番遠いのは私じゃなかつたから。バスが渋滞して全然動かないことが多くて遅刻しちゃうでしょ。だから御用邸まで自転車でよく行つてました。あの頃自転車に乗つてる人なんてあまりいなくて、開成高校の2,3人くらい。

宗 私は鵠沼ですが、JRで行つてた時期もありましたね。江ノ電で藤沢に出て東海道線で大船に出て、そこから横須賀線でね。4年間の間にあつち行つたりこっち行つたりしました。江ノ電の鎌倉駅が今の駅と違つて、八幡様の方に向かつていつたところですね。面白くて時々行つては乗つたり降りたり。ポールをグルッと回すのが不思議でねー。

横山 昔の電車、ご存知ないでしょ？ 昔は1両しか走つてなくてね。

天都 終点が島森のところだね。

横山 島森書店の前の方にガードがあつて、真中に線路があつて、着くと車掌さんが降りてポールをヒュッてさげて、それがうまく乗らないもんだから火花が散つてね。私なんか口開けてボーと見てましたよ。

—— 江ノ電も当時と全く変わつてしまつたか？

丸山 中途で停めてくれましたよ。待つて一つて言うと停めてくれました。

加藤 バスみたいね。

宗 私は鵠沼のすぐ近くにいましたんで、停まつてくれましたよ。男性と女性と一緒にならないで、車両の前と後ろのね。なつかしい想い出ですね。学校もそんなになかつたですからね、沿線にね。それで済んだんですよ。今は共学の学校がたくさんありますね。

男女の交流というのは少なかつたんですか？

加藤 全然！

丸山 接点がないでしょ。女子高でしょ。男子校でしょ。

—— 途中で会つたりとか……。

丸山 あるとしたら師範。

横山 鎌中の生徒さん。

加藤 建長寺のところの

横山 今の鎌学？

加藤 男の人も思つてたんだろうね。

丸山 関西旅行の時、吉野に一晩泊ましたんですよ。その時、今の鎌学ですね、やっぱり同じ日だったんですよ。そしたらその日は外出禁止です。

—— 祖父から聞いたんですけど、祖父が通信の工場に行かされて仕事をしていたら、……やはり男女の交流はなかつたらしいんですけど……、そこで仕事をしていると、どこからか女人たちが来てキャーっとか言われ、そういうところで接点があつたとか。

加藤 男と女がバチッと別れてたからね。

じゃあ今の共学とかは考えられないですか。

天都 その当時はね。今は当たり前だからねえ。

丸山 もう学校自体が、男、女、だから自然にね。

芹沢 今は小学校から中学から一緒だから違和感がないでしょ。でも当時は帰りがけに男の人がいるとアレッてね。

宗 「うしお」が届くでしょ。あれを見ると同じ名前の方が何人かいらしてね、ああいい時代になったなあ、

楽しいでしょうねって思うんですよ。

卒業した時に短歌をお作りになったそうですけれど、覚えていらっしゃいましたか？

天都 作ったことは覚えていますけど。

原田 全員が出さなきやいけなかつたんですよ。
それが決まりになっていて。

横山 私覚えてない。

丸山 習字の授業があって、その時に書くんですね。

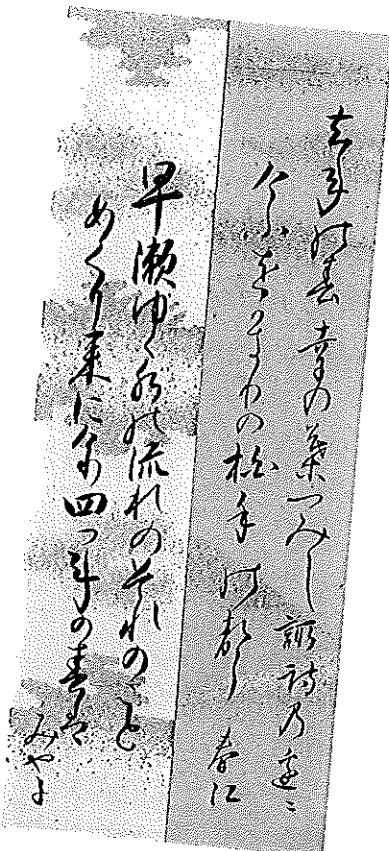
加藤 お習字やっておくといいですよ。

横山 選択授業でもないんですか？

—— この学校は音楽か美術なんです。

(短冊をみながらワイワイ)

—— では、この「みやこ」さんと「はるえ」さんに詠んでいただきたいと思います。



元気です、歴史の証人

原田 1時間くらいでチャカチャカって書いちゃったのよ。こういうのをやらないと卒業できなかつたから。

— 今の私たちに書けと言われても、きれいな言葉が出てきません。すごく素敵……。

徳永 お諫訪さまの森に池がありましてね。そのほとりを歩いているとなんとなく浮かんでくるの。

加藤 お休み時間にはそこに集まってね。ロマンチックな場所でしたよ。

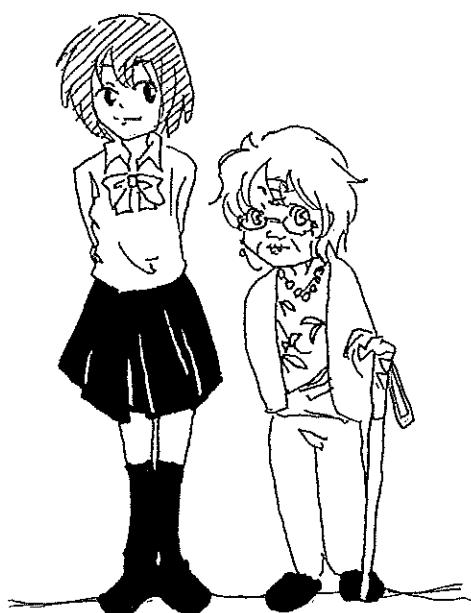
徳永 先生が見本を書いてくださってね、それを習って書いたんですよ。

— 当時の校歌を覚えてますか？

卒業生 ♪この山かの海 歴史を語る
清き自然是 吾等を恵む
わが鎌倉に 学べる友どち
享け得し幸をたたえむ
いざや

横山 60年も歌つたことないわ。
今の校歌をお願いします。

在校生 ♪朝は呼ぶ
かがやけり 学び舎の窓
大いなる 夜明けをもとめ
われら行く この道よ 真理の道
興せ ここに われら鎌倉高校
日本の未来



好きだった授業とか嫌いだった授業とかありましたか？

加藤 好きだったのはお作法です。お菓子ができるから。冗談ですけど。

天都 平均してたわね。嫌いなのはなかったわ。

— 嫌いなのがないんですか？私は数学が大っキライなんで。

横山 数学はほどほどにやってればなんとかなつたからね。どの教科も平均してね。

丸山 時間が来ればその教科を習うって感じでね、特別にどれが、とかいうのはなかったわね。

横山 大学に行くとかいうことがあつたらそつなつたかもしれないけど、別に女学校を卒業できればいい方で……。

天都 大学へ行くってこと自体が止められました。行きたいと思ったけど、行かせてもらえないかった。親が反対してね。大学に行くとお嫁に行かれなくなるって。

加藤 女がそんな勉強しちゃダメってね。女があんまり勉強しちゃうと男の人がバカに見えちゃうんですって。だからダメって。女学校がせいいっぱいね。

— 修学旅行はあったんですか？

原田 私たちの前の学年までは、修学旅行は横浜から船に乗つて行って、それでその中でテーブルマナーを覚えるつことだったんですよ。私たちはあれもダメになつた、これもダメになつた、という時代なものですから、ちょっと中途半端な気持ちが残つてますね。それよりももっと下の方だと修学旅行もなかつたんですよね。今はどなたも日本全国旅行してらつしやるけど、その頃は親を始め県外に出てつて旅行するなんて方は、お家が裕福とか親が教育熱心という方は行つましたけど、その頃は関西旅行みたいに学校が連れてってくれないと各家庭ではそういうことがなかつた時代でした。

横山 名古屋で降りてね、津とか伊勢の方とか、それから奈良へ行って猿沢の池に行って、京都に行って……。

天都 大阪で泊まりましたっけ？

丸山 大阪は泊まらなかつたわよ。奈良と京都。修学旅行は1週間行つたんですよ。

- 横山 私の旅行の思い出はね。
クラスの子が胃けいれんを起こしちゃって、吉野の山をずっと背負ってね、上から下へケーブルカーで降りてきて、そこでお医者様をよんで……。
- 天都 吉野はムカデがでてきてねえ。
- 私たちはグアムに修学旅行に行くんですけど当時高校生がグアムに旅行なんて想像したことありますか？
- 天都 全然！
国内だってやっとの旅行ですもん、海外なんて考えたこともない。
- 加藤 どこにいらしても、クラスの皆さんと行って一生の想い出をいっぱい残していくのが修学旅行ですよ。ただ行って食べて騒いでじゃなくてね。こんなおばあさんになってもいい想い出になりますから。
私は行かれませんでしたから……。
- 寺社めぐりだったんですか？
- 天都 そうよね。
- 横山 吉野は桜の時期でしたね。
- 加藤 私は大船駅でみんなを送ってね、泣きながら帰ったの。
- 原田 鉄道も昔の鉄道ですからね。修学旅行は集大成でしたね。私たちのちょっと後はなくなりましたけど。
- 横山 私たちの頃には、品切れは始まってましたけど、まだ太平洋戦争には入ってませんでしたから、それほどね
- 原田 アメリカの飛行機が低く飛んできたのは、卒業した年ですね。
- 横山 卒業した年の翌年ね。
- 加藤 グワーングワーンって。
- 原田 でも深刻な状態ではなかったですよね、私たちにとっては。
- そうなんですか？
- 横山 まだ大丈夫っていうか。
- 原田 物がなくなってきて初めて大変に、ね。
- 横山 学生さんはく靴がなくなって、それも配給制になつたりね。
- 原田 変な話なんですけど、私たちが適齢期になった時に、こんなこと言われたんですけどね、「トラック1杯の女性に対して男の方が一人。」ですから、結婚するのがとても大変。相手を見つけるのが大変。トラック1杯に、って新聞なんかに風刺されてた時代ですから。結婚の相手が非常に少ない時代に青春を迎えたんですよ。
- 横山 学校を出て間もなく結婚なさってね、戦争に行かれてそのままの方もね。
- では最後に、鎌高生に一言、お一人ずつお願ひします。
- 加藤 何しろ青春は2度とないですから、私の経験としては、いっぱい得るところがありますから、世の中をよく見て、お嫁にいって下さい。
- 横山 私もそう思いますよ。
やっぱりみなさんが家庭がきちんとされてると思いますけど、ご両親を大切になさってね。学業も大切に、健康も大切に。気をつけてがんばって下さい。
- 宗 「うしお」をいただいているので、みなさんの先輩方がいい大学に入ってらっしゃるのを、とても楽しみにして拝見してるんですよ。あなた方もお嫁さんに行く前には、いいところに、高い希望を持って、いらっしゃるのを楽しみにしていますよ。また「うしお」で、何回生がどうしたのか書かれているのを身近に感じますよ。
お元気でがんばってください。
- 菊地 みなさんがお話をしたとおりで、私は言うことがないですよ。「うしお」を送っていただいて、楽しみに見てるんです。みなさんも健康を第一にして勉強に励んでください。
今日はありがとうございました。
- 原田 何か自分の家に帰ってきたような気持ちがしましたね。とてもいい会を開いていただきありがとうございました。
私たちも先輩ぶるところは一つもないんですけど、こういう学校になってこられたということはうらやましいと思います。
これからもがんばって下さい。
- 徳永 こちらにうかがって、環境がいい場所で、生徒さんがのびのびしてられて、進学率もとてもいいようなこともお聞きしますので、これからますます、体に

元気です、歴史の証人

気をつけて、先に向かってがんばってください。

天都 私はすごく誇りに思ってるんですよ。

環境がいいじゃないですか、勉強に励むにもいいし。すごく評判がいいんですよ、鎌高。
だからみなさん、がんばってください。

丸山 私たちと時代があまりに違うもんですから、なんと申し上げていいかわからないです。ただがんばっていただきたいと思います。

芹沢 みなさんもおっしゃったように「うしお」がね、送られてくるのを楽しみにしています。

在校生からも感想を一言ずつ。

小森 私が一番最初に思ったのは、話し方が丁寧だな、と。敬語とかが、厳しく教えられていないので、きれいな言葉遣いが使えないで、自分が心配です。字もとてもきれいで……。すごく素敵だなあと思いました。

小池 祖父や祖母と話している感覚で、みなさんと話せてとても楽しかったです。

三浦 母校に来ると盛り上がって、想い出が残っているのはいいなあと思いました。私たちも将来そういう話ができるようになるといいなと思いました。



イラスト：三浦可杉妃

親子三代鎌高生

小森安晃

(S51卒)

一代目は母・和子(S21卒)。母が通っていたのは、鎌高の前身である4年制の鎌倉市立女学校で、現在の御成小学校の敷地内にあり、希望すれば誰でも入ることが出来たそうです(!?)。

1,2年生は敵国語の英語を除いた勉強や部活のバレーボールなどもやりましたが、3,4年生は太平洋戦争に伴う学徒動員で勉強どころではなくなり、母も「横須賀鎮守府」へ駆り出され、出征兵士の留守宅へ給金を届ける使役などに従事していたとのことです。

二代目は私(S51卒)。このまでは自宅から遠い高校へ3年間も通学することに……。年子の兄が鎌高入学を決めた頃、そんな動機から猛勉強を始め、合格することができました。即、野球部に入部し、部活はもちろん、文化祭、キマス、合唱コンなど今も続いている行事の楽しかった思い出がいっぱいです。

三代目は次男・啓太(H18卒)。中学時代から野球も勉強もそれなりに頑張っていた彼は、早々に推薦入学を決めました。鎌高(野球部)を選んだのは、幼い頃から鎌高のユニフォームに憧れていたこと、私が当時お世話になった先輩が教師として再び采配をふるっていたこと、夏の大会で父が歌えなかった校歌を歌わせたかったこと等……。私同様、鎌高ライフを充分に謳歌したようです。

母は、今でも元気で「梅組」の永久幹事として同窓生と連絡を取り合い、毎年クラス会を開催し、思い出話に花を咲かせています。

私は大好きな鎌高と今でも縁が切れずに、野球部OB会の役員を務め、次男が3年生の時にはPTAの方もお手伝いさせていただきました。

その次男も大学では野球を続けながらキャンパスライフを楽しんでいます。

三人三様、鎌高卒業生としての誇りと思い出を胸に、頑張っています。



伊勢清美

(S53卒)

母、私、息子と三代続いて鎌高生となりました。母は竹内典子(S28卒)、私(S53卒)、息子・達也はH19年入学です。

母のころはまだ駅にホームもなく、江ノ電から砂浜に飛び降りたと聞きましたが、今はもう確認することはできなくなってしまいました。息子が鎌高に合格したH19年3月に母は亡くなりました。

フォークダンス(ピア樽ポルカ)の楽しかったこと、かっこいい男子の先輩のことなどいろいろ話してくれたことを思い出します。

私が鎌高に初めて行ったのは中学1年の時、母と一緒に見に行った体育祭でした。その盛大だったこと、江ノ島と富士山の見える景色がすばらしくて、絶対ここに来たい！と思いました。

息子も江ノ電に乗って通う海のそばの高校に憧れて、鎌高受験を決めました。母もずっと応援してくれて合格も喜んでくれましたが、入学式の孫の制服姿を見ることはできませんでした。

青天のへきれきのように突然余命6か月と告知され、入退院をくり返す中、身辺整理をし、お通夜に流す音楽は「真白き富士の嶺」の曲と決め、会葬お札状の文を考えて亡くなった、しっかり者の母。半年後の「うしお」の協賛金の欄に母の名前が載っていました。ちょうど入院中の頃のようでした。母は鎌高をとても愛していましたのだと思います。

先日母のたんすの整理をしていたら、小さな箱を見つけました。中には、私の鎌高の黄色のバッジ、弟の浩一郎(S55卒)の水色のバッジ、そして母の鎌高のバッジ。丸型で赤に星月夜、そして“鎌高”と文字が入っていました。丸いものと、もう一つ台のついたものを弟と一つずつ分けて持ち帰りました。

私達の過ごしてきた時代は少しずつ違いますが、三代続けて、この海の見える同じ風景の中で高校生活を送れたことは、小さな奇跡のようでもあり、幸せなことだと思っています。

歴史

いろいろあります、鎌高の歌

卒業生の皆さん、校歌は覚えていますか?
鎌倉高校では校歌の他にもいろいろな歌が歌わされてきました。
いくつかをご紹介します。

鎌倉実科高等女学校校歌

佐々木信綱 作詞
成田為三 作曲

この山かの海 歴史を語る
清き自然は 吾等を恵む
わが鎌倉に 学べる友どち
亨け得し幸をたたへむ
いざや

誠をもととし よき道ふみて
進みゆく世と共にぞ進む
わが鎌倉に 学べる友どち
吾等の幸をたたへむ
いざや

山は呼ぶ きよらなり
不二ヶ嶺の雪
星月夜 ひかりをたずね
われら行く この道よ 希望の道
誇れ ここに われら鎌倉高校
日本の未来

鎌倉高等学校校歌

神保光太郎 作詞
石渡日出夫 作曲

朝は呼ぶ かがやけり
学び舎の窓
大いなる 夜明けをもとめ
われら行く この道よ 真理の道
興せ ここに われら鎌倉高校
日本の未来



応援歌

七里ヶ浜逍遙歌

松籟の音に 夢破れ
膚に寒し 二日月

窓辺に寄れば 有明の
荒磯に黒し 舟の影

ああ我が故郷よ 七里浜
旅路の果てに舞ふ千鳥も
流離の旅 今日果てて
溢るる幸に 憇ふなり

六

紺碧の空 きょう晴れて
はためくわれらの月星旗
集え若人 スクラム組んで
永遠に輝けわれらのしるし

ハアー

日坂の丘に立ちや

沖の潮風

さつと吹き上げる

ヨイ ヨイ

蒼茫寄する 黒潮に
鍛えし腕 いま鳴りぬ
集え若人 スクラム組んで
永遠に輝け われらの誇り

右にや 白雪 富士の嶺

左にや たなびく

大島浮かぶ

ヨイ ヨイ

いざ立て鎌高
時は今ぞ奮え
勝利の女神は
われに輝く

天下の鎌高 風光明媚

ちょいと いけるね

声も高らに 足並み軽く
歌うはわれらの応援歌
進め若人 意気さつそと
紺碧の空 いま君を呼ぶ

伊豆の山並 夕映えて
染め出る天城の 嶺淡く
相寄る影も 長閑けしや
五

相寄る影も 今は絶へ
暮るる浜辺に 人もなく
黄金花散る 波しぶき
ただ囁ける 波の音

いでや朋輩 打ち連れて
彷徨ひ行けば気も晴れて
心に憂さの 影もなく
歌ふ我等の 逍遙歌

九

こ一りや
いけるね

現在の場所に県立鎌倉高校の校舎ができて、引っ越しをした昭和二十七年、この三つの歌が作られた。そうである。

その時のことによく知る、男子第一期生の沢井実さん（S28卒）にお話をうかがつた。

昭和二十六年十一月に日坂の地に校舎ができて、翌二十七年二月御成小学校併設の校舎から引っ越しされた。

当時は校歌がなかったので、トラックに机や椅子などを詰め込んで引っ越しされました。楽しい思い出であり、初めて校舎を見た時は感慨無量だったそうだ。仮住まいが終わり、自分たちの学校であるという喜びで、みな愛校心にあふれていた。



見ながら、学生たちはもちろん先生たちともよく一緒に歌つたそうである。

これらの歌を全校にも広げようということで、先生方に許可を取り、朝礼のあと、応援団の指導のもと全校生徒で何週間も練習をし、新入生が入ってきた時には歓迎会の中で教え、体育祭の後には校庭でヤーストームを囲んで歌い、文化祭の後には校庭で輪になって歌つたそうだ。

学生間でよく歌われ、先生方も盛り立ててくれて、いつのまにか引き継がれていった、ということである。

相模の海に 朝日が昇り
緑の森に校舎が映える
友と手を取り 真理を求め
未知の世界を見つめる我ら
巣立ちゆくまで

鎌倉高校 我らが学び舎 優しく見守る

富士の麓に 夕日が沈み
白い校舎に静けさが来る
雄々しき闘志この胸に秘め
希望の橋を明日に架ける
わが行く道を

明るく照らす

鎌倉高校 永久に賛えよ

鎌高賛歌

松下孝子 作詞
二宮正美 作曲